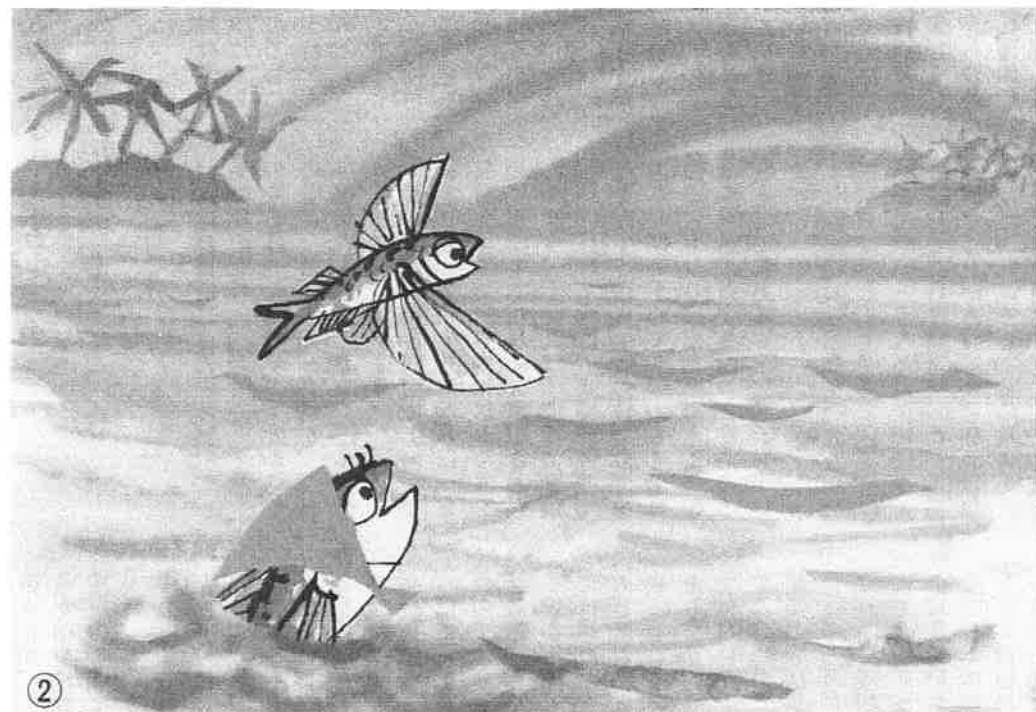


福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会
 〒136 東京都江東区夢の島3-2
 都立・第五福竜丸展示館内
 電話 (521) 8494



②

ぼうや「きれいなねえ、おかあちゃん。」
 かあさん「お日さまが、もう一つできたようね。」と、そのときです(紙芝居2幕)。

この物語は、一九八二年、絵本で出版され、アニメーション映画化もされ、多くの子ども達に、平和と生命について考えさせています。その日、太陽が西からも上って、ものすごい台風が襲ったかと思うと、雪がふり、四センチにも積った子ども達は喜び、雪合戦もしました。(ロンゲラップ島へ強制移住されたビキニ島民の証言)

平和な生活に、突然襲った恐ろしい出来事について、子どもと対話し、話し合うことをとおして、この作品は、心に刻まれていきます。そして、何よりも演じる大人の、作品への深い理解が大切だと思います。

私は、この物語を二十年以上も、八月がくるたびに保育園の幼児に聞かせてきました。

「その時、魚の坊やとは、どんな気持ちだったのかしら? 友達や魚と、どんなこととして遊ぼうと思ったのかしら?」などと発問して、海や魚や海を飛ぶ鳥たちにも、気持ちを通して、お話をします。対話は真剣にトビウオの坊やの病気を治してあげたい、と迫っていきます。

「まだ助けてあげられると思うから、水族館につれてきて、治してあげたい。」「大きくなったら医者さんになって助けてあげたい。でもよく注射が怖いからやっぱ、だめだ。」「病気がうつったら大変だから、助けに行けない。」と生命を助けること助けるための恐怖感も感じるので。

武蔵野市西久保保育園園長 園田とき

△紙芝居「トビウオのぼうやはびょうきです」より
 発行：童心社(85・8・1)、作：いぬいとみこ、
 画：津田櫓冬

来館者の声から

小学六年生の子供が第五福竜丸の本の写し書きを六月より毎日しています。いま約三冊程度までです。み、ノートは三冊になりました。この子供に第五福竜丸を見せるため立寄りました。

私は民間放送で働いている者ですが、国家機密法の継続審議、F・16三沢配備など戦争一步前の状況にあることを強く感じ、子供達のためにも、絶対戦争を起させない、そのためにがんばっているつもりです。

第五福竜丸を、ここまで保存してこられた皆様に敬意を表します。また、この保存された力を結集すれば、必ず戦争は防ぐことができると、確信します。小額ですが、家族みんなでカンパをしました。保存運動も大変でしょうが、がんばって下さい。(青森市浦町 津村賢)。

三年振りに訪れましたが、補修工事が始まり、形がくずれなくなるようなので、安心しました。これからも、平和を願う人々に見てもらえれば、いいなあと思います。(都立国立高校 M・H)。

広島から来ました。第五福竜丸についての展示、アトミックソ

長の講演、80名近い参加者による席題「水・扇」の記念句会などが行なわれ、核兵器廃絶・反戦平和への誓いを新たにしました。

一粒ずつ梅拭いていくさ消してゆく。

東京の新井不二夫さんの句が第五福竜丸平和協会賞に高得点で選ばれ、賞状・トロフィー等が贈られた。

第五福竜丸から表彰状

広島原爆被爆40周年の八・六を直前にした八月四日、東京目黒の区民センターで第16回原爆忌東京俳句大会がひらかれた(平和協会後援)。全国から寄せられた二、三六句の紹介、都知事賞ほかいくつかの入賞作の表彰、東京都原爆被害者団体協議会の山本事務局次

ルジャーなどのパネルなども広島で展示された方がいいと思います。東京でヒロシマ・ナガサキのパネルがみられることは心強く思います。(広島大学学生 森井哲也)。

久保山愛吉氏死去31周年の九月二十三日、いくつかの催しが計画されている。

●第五回久保山忌句会(同実行委主催、新俳句人連盟・原爆忌東京俳句大会実行委・第五福竜丸平和協会協賛)。午前十時第五福竜丸展示館集合、記念碑前で集いの後午後一時、江東区文化センター研修室で句会。投句歓迎。

●9・23核兵器廃絶の集い(東京原水協主催)。午前十時半第五福竜丸展示館前集合。ヒロシマ・ナガサキからのアピール署名の交流会、久保山記念碑に折鶴を贈るなど。

●9・23久保山愛吉さんを追悼する平和のつどい(仮称)(同実行委主催、平和と軍縮をめざす東京青年の会よびかけ)。午後一時、豊島区民センター。

●地元焼津では、墓参行進、墓参の集い。午前十時半焼津駅集合。

編集後記

▼この八月、四年ぶりに平三義さんに、入院先の長崎県小浜国立療養所でお会いした。明日退院出来ることになったとのことで、顔色も良かったが、「声が小さくなって」と。今、高知の先生方がすすめている被災船調査の話をすると、うれしそうになつた。元弥彦丸乗組員平さんが、原爆手帳の交付を申請して、もう十年になる。

▼八月三十一日、三島の鈴木宗一郎夫妻が来館。第五福竜丸の保存に関する朝日新聞の投書のコピーを額におさめ、寄贈して下さいました。「展示館にふさわしい小さいながらの資料となれば」と。

▼船の修理も年内にメドをつけるため急ピッチ。船尾は予想以上の傷み。冷房も船内にはきかず、船大工さんたちは汗だく。激励を!

●100万人参観者運動を!

85年8月来館者数	5,265名
通算1カ月平均来館者数	5,161名
当月1日平均来館者数	195名
通算来館者数	572,906名

【連載】ヒロシマ・ナガサキ被爆四十年の中で (4)
第五福竜丸に思う

木下 航二

今年八月のある日、私ははじめて夢の島の第五福竜丸を訪ねました。別の日、やはり暑い日でしたが、焼津の久保山さんのお墓にもお参りしてきました。それというのは私が作曲した「原爆を許すまじ」という歌がああびき二事件から生まれた歌なので、ちょうどその経過を「原爆を許すまじ、世界の空へ(あゆみ出版)」という小さい本にまとめたのを機会に、かねての念願を果たしたので。

三十一年前のあのころ私はまだ二十代で高校の社会科の教員でしたが、関鑑子先生の指導する中央合唱団に入っていたごえ運動に参加し、サークル活動をしていました。昭和二十九年、福竜丸の事件で日本中に原水爆反対の声が高まった時、関先生が歌の方でも原水爆反対の歌を作らなければいけない、とよびかけ、歌を募集しました。私もそのころ素人ながら作曲を試みていたので、何とか原水爆反対の気持を歌にしたいと思い、

山さんが、三月一日に被災してから十四日に焼津に帰港するまで、被災のことはいっさい打電しなかった、ということでした。

最近(五月二十二日)公表されたアメリカの外交文書によると、当時のアリンソン駐日大使は、福竜丸の米国への引き渡しや米国人医師による乗組員の検診を要求したらしい。それが出来なかったため、吉田内閣の管理能力がないなどと非難しています。アメリカははじめ福竜丸をスパイ船だといっていたのですから、それらを考えあわせると、もし久保山さんが被災のことを打電していたら無事に焼津には帰れなかったかもしれない。もし帰れたとしてもすぐアメリカ側に連れていかれたのではないかと、そして事件全体が闇に葬られたのではないかと思うのです。久保山さんは心のうちでは一刻も早く乗組員の病状を家族に知らせたかったであろうに、それを抑えて冷静な判断で乗組員と福竜丸を守ったのです。十四日に帰港すると被災の事実をいち早く読売新聞が報道して日本中の知るところとなり、そして乗組員は日本の病院で万全の治療を受けることが出来、久保

山さんは不幸にして犠牲となられたけれども、死亡者を最小限に食いとめることが出来たのです。

被爆四十周年に当たり、今年はとりわけ反核の声が高まった中で、千駄ヶ谷の国立能楽堂ではかつてない「反核平和のための能と狂言の夕べ」(八月八・九日)が催され、私も八日に拝見しましたが、演目の「藤戸」は、シテの親世栄夫さんの熱演で迫力ある舞台でした。源氏の武者が先陣の手がらを立てようとして漁師に浅瀬を教えてもらい、人に洩れるのを恐れてその漁師を殺してしまう話ですが、私には、戦争のことだけを考えて人道を無視した武者のために殺された漁夫が、久保山さんと二重写しになって感じられてなりません。そして焼津の海近く虚空蔵山の蟬しぐれに包まれた久保山さんの墓前に、海紅豆の花が手向のように紅々と咲いていたの思い出していました。

(都立日比谷高校教諭)



未来の漁師、保戸島の子どもたち

保戸島を訪ねて

元第五福竜丸乗組員に会う

大分県津久見市の津久見港から連絡船で約一時間。八月の保戸島は絶えずざわめきが聞こえてくるような明るい開放的な島だった。平和そのものに見えるこの島にも、かつて忘れることのできない事件があった。小学校が直撃を受け、児童一二四人が死んだ保戸島空襲(45年7月)と第五福竜丸の被災だ。第五福竜丸乗組員の内、二人が保戸島出身者だった。現在、元乗組



員の高木兼重さん(60)は津久見市内に住んでいる。安藤さんは今も、マグロ船の船主であると同時に、自らも漁に出る現役だ。安藤さんにお会いすると開口一番「戦後四十年、平和は来たろうか」と言われ、驚かされた。マグロ漁は現在不漁で、みな赤字覚悟で航海に出るといふ。大型船に続き小型船の減船も近々行なわれる予定だ。そして、安藤さんは最近、知人のひとりにおきた事件に心を重くしていた。

その知人は昨年、ミクロネシアで操業し帰国すると、領海侵犯したということで、漁協を通じて五百万円の罰金の支払命令を受けた。航海中、拿捕されたり、事情聴取もされず、問答無用の処置だった。このことは、安藤さんの長い漁師経験から他人事として聞き流せないことだった。安藤さんは、やり場のない怒りを吐き出すように「水爆の脅威より怖いことだ」と語

る。知人は納得できないまま支払ってしまう。「まだまだ保守的なものが残っている」と、第五福竜丸のことをすすんで語ろうとしない安藤さんは小さく言った。

保戸島小学校へ向かうと、校庭では若々しい青年たちが野球を楽しんでいた。高校生に見えた彼らはれっきとしたマグロ船の漁師だった。「みんな中学時代のクラスメイトさ」――彼らの次の航海も間近かという。

「どうして島を出たの?」

保戸島の子どもたちの間では、高木さんはちょっとした有名人である。高木さんが島へ行くと、「高木のおじさんだ」と子どもたちが声をかける。

被災後、高木さんは、貨物船に乗り海の生活が長かったため、事件のことを語る機会もなかった。その高木さんに小さな変化が起きたのは、昨年の三月一日。事件から三十年目のその日、高木さんは母校でもある保戸島小学校の先生の要請で、全校生徒の前に立った。



保戸島空襲の戦災児童の慰霊碑には千羽鶴が…… (保戸島小学校内)

「何んでも質問してくれ」という高木さんに「放射能はどのくらいこわいのか」「ビキニ島は今どうなっているのか」など、子どもたちは競って質問をした。「しっかりと質問をするもんだ」と高木さんは感心した。

大分県教職員組合は今年制作した平和カレンダーの三月に、頭部に包帯をまいた被災後の高木さんの写真を使った。今、高木さんは「要請があれば市内の学校でも話してもいい」と思っている。「津久見のみかんは日本一だ」と、高木さんは語る。保戸島から市内に移って十一年。子どもたちは高木さんに「どうして保戸島を離れたのですか?」と問いかける。